

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ああるまつりかレインボーウイング		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 20日		～ 8年 2月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 30日		～ 8年 2月 6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	8年 2月 10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	近隣の小学校の支援級・普通級の1年生～6年生までを対象にし、小集団の中で一人一人に合わせた支援を行いながら社会性を身につけていけるように支援している。	自分の気持ちの伝え方、相手の気持ちを考えることなど、人とコミュニケーションをとる上で大切なことを伝えている。SST等で自分のいいところや相手のいいところを考え、伝え合っている。身体を動かすことをメインにしながらも心の成長につなげていけるような支援を目指している。場面に合った行動をとっていけるように支援している。	一人一人に合った支援活動を取り入れながら、他学年との関わりを通して相手を思いやる気持ちや譲り合う気持ちを育てていく。自分の事は自分でやる意識を持たせ、自立に向けて自分のできることを増やしていく。
2	外活動、室内活動共に、身体を動かす活動をメインに取り入れ、身体の動かし方を覚えながら基礎体力をつけていく。身体を動かす事で心の安定や成長に繋げて、小集団の中で自立に向けた支援を行っている。	体幹トレーニングや身体の動かし方を意識し、サーキットメニューが一定にならないように工夫している。自分の事は自分でやる意識を持たせ、自立に向けて自分のできることを増やしていけるように支援している。面談等で家で取り組める工夫を伝えている。	様々な運動活動を取り入れてボディイメージを掴んでいけるように支援していく。テーマを決めて活動内容を決めていく。職員間で活動内容の案を出し合いメニューを増やしていく。
3	一人一人の成長に合わせ、地域へ返すことも視野に入れた支援を行っている。	児童の成長に合わせて、放課後の過ごし方の大切さを伝え、面談等で時期を見ながら相談している。	地域へ返った時のことを考え、困りごとを減らしていけるように支援し、自身で考えて行動できるようにコミュニケーション能力の向上を目指し支援していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	一人一人の成長に合わせ、地域へ返すことも目的としているため、高学年になると退所する児童もいる。空きがでるタイミングが定まらない為、利用人数が減ってしまうことがある。	高学年になると、放課後の過ごし方を自分で考えていくことを促している為	低学年の利用は安定している為、低学年の児童を増やす。高学年には利用日を減らしていくタイミングや退所を考えているタイミングを聞き、低学年で利用日を増やしたい児童へ問い合わせをしていく。相談支援事業所へ問い合わせ、利用を考えている児童の有無を聞く。
2	対象児童が1年生～6年生のため、中学生になってからも放デイを利用する場合は、利用先をさがさなくてはならない。	対象年齢を定めているが、相談支援員さんと相談しながら退所後の通所先をしっかりと伝えていく。	相談支援員さん等に他事業所の情報をもらい情報収集していく。
3	下校時間が重なり、学校への送迎時に職員の人数が必要な為、送迎できる小学校が限られてしまう。	地域の小学校へ通う児童を対象にしている為	職員体制を増やしていく 下校時間が重なり、どうしても送迎が難しい場合は自宅を待ってもらう等、保護者の理解を得ていく